

学生に「ノートの取り方」を身に付けさせる(2)

主催：札幌学院大学 FD センター

日時：2013年2月20日（水） 15:00～16:30

会場：C館4階会議室（C410） （事前の申し込みは不要です）

対象：本学の教職員のみならず



初年次教育の主要なテーマに「アカデミックスキルズ（論理的思考力や情報収集能力など、大学での勉学や研究に必要な基礎能力）」あるいは「スタディスキルズ（大学で学ぶための基本的な技術・技能）」を身に付けさせる取組があります。これは、高校までの受身の学習姿勢を変え、学生を主体的な学び手に変革する営みといえます

例えば、大学に入学した時点で、学生たちは「真のノートの取り方」を身に付けていません（高校では板書を書き写せば自動的にノートが完成したからです）。したがって、大学の授業で、彼ら彼女らは困惑します。授業を終えたときにノートが真っ白のままだからです。

板書を転写するスキルしか身に付けていない学生に「ノートの取り方」を身に付けさせること。これは大学教育にとってどういう意味を持っているのか？ どのような働きかけが求められているのか？

今回は2012年9月に文京学院大学で開催された初年次教育学会第5回大会にて「1年次学生にメモやノートを取る習慣を身につけさせる試み」という発表題目で、発表を行った皆川先生の参加報告を題材に、参加者間で自由に語り合う場にしたいと思います。

プログラム概要：

15:00～15:45 初年次教育学会参加報告（質疑応答含む）

皆川 雅章 氏（社会情報学部 社会情報学科）

1年次学生にメモやノートを取る習慣を身につけさせる試み

15:45～16:30 フリーディスカッション

獲得目標：

- 大学での学びにおいて「ノートを取ること」の意味と学生の実態について認識を深める
- 学生に「ノートの取り方」を身に付けさせる働きかけについて考えるヒントを得る

報告概要：

- 皆川 雅章氏

学習上の1つのスキルとして必要な「メモを取る」、「ノートを取る」習慣を1年次に身につけさせる訓練の試みを、2つの必修科目において行いました。「基礎ゼミナール」では、他の学生の意見をノートにメモし、それをもとに自分の意見を組み立てたり、講義内容のまとめを書いたりするための材料としました。「社会と情報」では、毎回ノート提出を行わせ、板書のノートの取り方や、講義時間の最後に行う課題の出来をチェックし、添削して返却しました。また、普段の学習の積み重ねの重要性を認識させるために、講義ノートをもとに、定期試験のためのまとめを書かせました。今回は2012年9月5～6日に文京学院大学で開催された初年次教育学会第5回大会にて「1年次学生にメモやノートを取る習慣を身につけさせる試み」というテーマで発表を行ってきましたので、そこで寄せられた他大学の教員からの声なども含めて、参加報告をしたいと思います。